

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷九十二第

行發日一月九年四和昭

論叢

相續税の弱點 法學博士 神戸 正雄

津藩の均田策 經濟學博士 本庄榮治郎

經濟靜學と經濟動學 文學博士 米田庄太郎

說苑

我國の經費増加と物價の變動 經濟學士 小山田 小七

講演

上海の社會狀態 法學士 櫻木 俊一

雜錄

越前米浦の農民逃散 經濟學博士 黒 正 巖

獨逸^{に於ける}交通政策研究の現況 法學士 前田 稔 靖

投資トラストに關する一考察 經濟學士 一谷藤一郎

艦船工場に於ける職工の生活 經濟學士 芝 元 一

物價指數に關する一論 經濟學士 木村喜一郎

マイヤー文庫 經濟學博士 沙見 三郎

近着外國經濟雜誌主要論題

艦船工場に於ける職工の生活

芝 元 一

一 はしがき

近時社會問題中非常な重要性を以て論議せらるゝに至つた問題は、言ふまでもなく労働問題にして、社會問題即ち労働問題たるの感がある。此労働問題發生の原因は種々あるも、就中労働者と資本家即ち雇はれる者と、儲ふ者との間に双方が其の實情を知らざるにより、問題を生ずる場合が非常に多い。然らば謂ふところの其實情を知るには、何によるかと言へば、之はどうしても正確な事實を示す正確な統計によるほか途がないのである。此意味に於て、大阪鐵工所本社工場に於ては従業員一般の實情を知り、之に對する施設研究の資料を得るために、昭和四年三月三十日を期して、従業員一同の戸口調査を施行した。調査に就き職工に關するものは、工場課にて分擔し、職員その他に關するものは、秘書に於て之を行ふこととした。以下本稿に於て職工に關する調査の結果を報告しやうと思ふ。

二 調査の方法

1、調査施行に就き次の通り委員長及び委員を囑託した。

雜 錄 艦船工場に於ける職工の生活

2、協議打合せ

委員長 工務部長。
委員 秘書。各課長。監査員。シヨップ主任者。
職長。組長。工場懇談會委員。健康保險組合會議員。
各課員中より選任せられたる者。

三月廿五日、委員長及び各委員の間に協議打合せを開き、各課に於ける調査票配布を廿七日、その取纏め日時を、三十日午后四時三十分(終業時刻)とし、四月一日午前中に各課より委員長の許迄送付することとした。

猶ほ調査申告につき、脱漏重復を避けるため申告者には、抽籤により賞品を贈呈することとし、抽籤券は調査票と引換へに交付することとした。

賞品 壺等賞 置時計壹個 一名
貳等賞 作樂服一着宛 十名
參等賞 作樂手袋一組宛 五百名

其他調査票例示添付の社内通知及び掲示によりて大いに宣傳に努めた。

戶 員 業 従

3、戸口調査稟雛形
 雜 錄 艦船工場に於ける職工の生活

第二十九卷

四五六

第三號 一三八

勤 通			役 兵		名誌雜聞新		宅 住			所 住 現		名アツヨシ		
市電櫻島終點下車 汽車ニテ櫻島驛下車 天保山渡(下ノ渡)			年徵集							縣 市		格 資		
要 = 勤 通			役 陸 海 軍		オチラ		下宿料 家賃 壘數			郡 區		號 番		
			兵				圓 圓			町		名 組		
							錢 錢 枚			丁 日		地 生 出 名 氏		
入加險保生命			樂 娛		味 趣		好 嗜		者 隅 配		番 地 第			
額 金 名 社 會											電 話 局 號		縣 府	
									主 帶 世				齡 年	
									教 宗					
									方 (呼出) 方					

4、記入につきての注意事項(調査票裡面)

イ、組名欄ニハ自分ノ働イテキル組ノ職長又ハ組長ノ姓ヲ記入スルコト

ロ、出生地ハ府縣ノミ記入ノコト

ハ、年齢ハ數ヘ年ヲ以テ何歳ト記入スルコト

ニ、現住所ハナルベク詳細ニ正シク記入シ電話ガ自分ノ

所有ナレバ(呼出)ヲ抹消スルコト

ホ、住宅欄ニハ自宅、借家等ヲ記入シ其ノ壘敷及借家居

住者ニアリテハ家賃ヲモ記入スルコト。但シ下宿者ニ

アリテハ下宿料ノミ記入スルコト

ヘ、配偶者ハ同居セルト否トヲ問ハズ有無ヲ記入スルコト

ト、世帯主欄ハ世帯主ガ自分ナラバ自分、父ナラバ父、

兄ナラバ兄ト記入スルコト

チ、宗教欄ニハ淨土宗、眞宗、何々等其信仰スル宗旨ヲ

記入スルコト

リ、新聞雜誌欄ニハ自己ノ愛讀スル大阪毎日新聞、勞働

新聞、キング、講談雜誌等ヲ記入スルコト

ヌ、ラヂオ欄ニハラヂオヲ設備セラレ居ルヤ否ヤヲ記入

スルコト

ル、兵役欄ニハ(補充、後備、歸休)役、陸海軍、歩(騎、

砲、工、輜重、輪卒)兵ト記入スルコト

オ、趣味娛樂欄ニハ觀劇、音樂、圍碁、野球、角力、闘

藝等自己ノ趣味娛樂等ヲ記入シ「嗜好欄」ニハ酒、煙草等自己ノ嗜好物ヲ記入スルコト

ワ、通勤方法ハ表記ノ六種ノ内自己ノ平常トレル通勤方

法ヲ殘シ他ヲ抹消スルコト、通勤時間ハ自己ノ家ヲ出

テ會社ニ到着スル迄ノ時間ヲ記入スルコト

カ、生命保險欄ニハ其會社名及金額ヲ正シク記入スルコト

ト

コ、扶養欄ニハ同居セズシテ自分ガ扶養シテ居ル人數及

金額ヲ記入スルコト

ク、副業欄ニハ副業ノ種類(例ヘバ煙草店、菓子屋)及一

ヶ月平均收入等夫々記入スルコト

ケ、續柄欄ニハ父、母、夫、妻(内縁ノ妻ヲモ含ム)長男

二男、甥、姪、妻ノ兄、同居人等其續柄ヲ詳細ニ記入

スルコト

コ、家族又ハ同居人中世帯主ニ對シ下宿料ヲ支拂ヒ居ル

者アルトキハ續柄欄ニ「下宿料アリ」ト記入スルコト

ツ、世帯主ニ雇ハレテ同居セル者ハ續柄欄内ニ「雇人」ト

記入スルコト

ネ、家族ト雖本籍其他ノ地ニアリテ本人ト同居セザルモ

ノハ記載スルニ及バザルコト

ナ、同一家屋内ニ居住スル者ト雖經濟ヲ別ニシ居ル者ハ

本調査ニ何等ノ關係ナシ從ツテ記入スルニ及バザルコト

ト

(第一表) 在籍人員數に對する申告人員數の比率

種別 職名	昭利4.3.30 在籍人員數	申告人員數	申告人員數	
			在籍人員數	
造船部	現圖工	162	152	93 %
	焊接工	42	37	88 %
	撿鐵工	136	126	92 %
	穿孔工	91	91	100 %
	取付工	238	208	87 %
	鉸銀工	136	126	92 %
	鑽孔工	87	84	96 %
	艀裝工	184	170	92 %
	計	1,076	994	92 %
機械部	模型工	34	31	91 %
	鋸物工	112	106	94 %
	鍛冶工	59	55	93 %
	機械工	170	155	91 %
	製圖工	204	151	74 %
	銅工	72	69	100 %
	仕上工	263	176	66 %
	電氣工	37	36	98 %
運轉工	68	67	98 %	
計	1,019	846	83 %	
其他	車輛工	115	98	85 %
	亞鉛工	7	7	100 %
	修繕工	87	85	98 %
	運搬工	160	160	100 %
	船員	30	28	93 %
	道具工	91	88	96 %
	製材工	13	12	93 %
	倉庫定夫	28	28	100 %
營繕工	15	14	93 %	
計	546	520	95 %	
總計	2,641	2,860	89 %	

ラ、本票ニ記載シタル家族其ノ他ノ者ニシテ有職者ナルトキハ必ズ職業欄ニ其旨記載スルコト

1、本票ハ皆サンノ福利増進ノ爲ノ統計資料トシテ使用スルモノデアリマスカラ右注意事項御熟讀ノ上誤ナク記入シテ下サイ

2、本票ハ掛員ノ外一切閑置セシメマセン

三 調査の結果

調査申告の成績は昭和四年三月三十日在籍職工人員數二、六四一名の内申告人員數二、三六〇名にして其比率は八九%であつた。第一表の如くである。

八九%の比率であるから、その調査報告に基き、職工の生活の大體を捕捉するに差支ないのである。試み

に調査報告の重要なものを、職工の境遇 職工の精神生活、職工の經濟生活の三つにまとめると、次の如

くである。

四 職工の境遇

職工の生活状態を明かにするに當つては、先づ其境

遇を調査する必要がある。身分關係としては、年齢と配偶關係と家族又は同居人數と學歷とを掲げたのである。

(第二表) 職工の年齢別

	造船部	造機部	其の他	總計
15才	2	2	0	4
16	7	12	1	20
17	16	10	7	33
18	17	20	6	43
19	34	25	6	65
20	36	27	13	76
21	35	28	11	72
22	34	28	15	75
23	39	28	17	80
24	40	32	21	93
25	50	32	20	102
26	42	26	18	86
27	42	40	24	106
28	49	53	25	127
29	58	38	18	114
30	60	39	30	127
31	52	34	18	104
32	45	28	29	100
33	19	30	18	69
34	40	44	16	100
35	41	34	24	99
36	36	21	16	72
37	25	33	25	83
38	22	22	13	57
39	21	21	15	57
40	12	16	13	41
41	18	16	17	51
42	18	13	9	40
43	17	8	8	33
44	13	14	6	33
45	11	7	9	27
46	9	8	5	22
47	6	12	9	27
48	5	10	3	18
49	3	14	3	20
50	10	6	5	21
51	3	3	4	10
52	2	4	1	7
53	2	4	1	7
54	2	6	5	13
55	1	1	4	6
56	0	1	5	6
57	1	2	2	5
58	0	0	2	2
59	0	1	2	3
60	1	0	0	1
61	1	1	1	3
計	994	846	520	2,360

(第三表) 職工の配偶關係

	造船部	造機部	其の他	總計
有配偶者	567	537	363	1,476
無配偶者	427	309	157	893
計	994	846	520	2,360

(第四表) 職工の家族又は同居者員數

	造船部	造機部	其の他	總計
ナシ	202	128	74	404
一人	131	103	70	304
二人	183	183	109	475
三人	157	127	97	381
四人	120	119	74	313
五人	94	89	50	233
六人	55	53	25	133
七人	34	24	14	72
八人	10	10	4	24
九人	4	6	3	13
十人	4	1	0	5
十一人	0	3	0	3
計	994	846	520	2,360

(第五表) 職工の學歷

		造船部	造船機部	其の他	總計
小學校を卒業せぬ者		52	50	41	143
小學校	尋常卒業	555	396	276	1,227
	高等退學	61	62	34	157
	高等卒業	282	245	143	670
	計	950	753	494	2,197
中等學校	中學校	8	13	7	28
	商業學校	3	4	5	12
	職工學校	7	20	5	32
	工業學校	7	23	4	39
	造船甲種	3			3
	其の他	16	24	5	45
	計	44	90	28	160
高等工業			3	3	
計	994	846	520	2,360	

以上の三表を比較するに、職工の年齢は平均三十才となつてゐるから、有配偶者五に對し無配偶者は三と云ふ數字を示してゐる。又職工の家族又は同居者員數も二人か三人かとなり、夫婦暮しに子供が一人か二人かと云ふのが大多數を占めてゐる。尙職工の學歷を序に調査して置いたが、第五表の示すが如く、過半数は尋常小學校卒業の程度である。

五 職工の精神生活

職工の精神生活の第一として、第六表に宗教を掲げたのである。勿論、此等の宗教に信仰を有してゐるか、又は先祖傳來の宗教を形式的に守つてゐるに過ぎないのかの問題となると、全く不明である。然し第六表が此の問題に對し或る有力なる解答を與へてゐる事は事實である。

(第六表) 職工の宗教別

		職工數
佛	淨土宗	260
	法華宗	122
	天台宗	16
	眞言宗	258
	禪宗	152
	眞宗	1,036
	其の他	41
計	1,885	
基督教		27
神教に 准ずるもの	理教	44
	金光教	10
	天住	1
	黒住	38
	其の他	93
計		93
不明		355
總計		2,360

職工の趣味生活を調査する爲めに、第七表、第八表第九表の三表を作製したのである。第七表に於ては主として娯樂の方面を注目したのである。

(第七表) 職工の趣味及び娛樂

	造船部	造機部	其の他	總計
野球	100	86	44	230
球球	8	9	2	19
道道	7	5	4	16
劍道	5	2	3	10
水泳	5	7	3	15
角力	70	42	18	136
登山	43	53	22	118
旅行	29	40	14	83
散步	31	62	20	113
神佛	28	37	17	82
競馬	7	10	3	20
活動寫眞	2	1	1	4
芝居	236	161	96	488
音樂	183	172	111	466
球戲	163	120	90	363
俳諧	32	12	19	63
曲節	4	11	2	17
浪舟	4	2	5	11
遊釣	12	6	2	20
鳥藝	31	39	19	92
讀書	1	2	3	6
花道	32	54	45	131
茶治	7	2	1	10
茶治	60	39	23	122
茶治	132	144	62	338
茶治	13	8	3	24
茶治	4	1	2	7
茶治	2	3	4	9
茶治	110	107	65	282
茶治	47	43	26	116
茶治	137	89	98	324
計	1,544	1,359	824	3,727

數の上から云へば、活動寫眞、芝居、音樂、讀書、圍碁將碁、野球の順序となつてゐる。尙本表及び次の二表に於て、總計が申告人員數以上となつてゐるのであるが、これは一人にて二種以上の趣味生活を樂んでゐる事の爲めである。

(第八表) 職工の讀書及びラヂオ

	造船部	造機部	其の他	總計
新聞	403	389	198	990
大阪朝日	381	391	213	985
大阪其他	26	94	14	134
計	810	874	425	2,109
雜誌	83	73	50	206
キ現富新實主共	9	5	0	14
グ代士年日本友他	8	3	7	18
ン青業之日の計	6	4	2	12
グ代士年日本友他	2	2	0	4
グ代士年日本友他	4	11	3	18
グ代士年日本友他	47	69	30	146
計	169	167	92	418
ナシ	206	61	94	361
ラヂオ	18	33	8	59
有無計	976	813	512	2,301
有無計	994	846	520	2,360

(第十表) 職工の一ヶ月生計費

	造船部	造機部	其の他	總計
20圓以下	4	7	0	11
20—24	11	7	3	21
25—29	24	14	7	45
30—34	32	28	9	69
35—39	38	40	16	94
40—44	71	34	16	121
45—49	58	33	28	119
50—54	97	75	55	227
55—59	66	29	24	119
60—64	107	82	67	256
65—69	64	55	39	158
70—74	75	67	53	195
75—79	47	46	36	129
80—84	66	65	41	172
85—89	20	38	19	77
90—94	23	34	15	72
95—99	17	27	9	53
100—104	23	36	8	69
105—109	2	4	1	7
110—114	6	13	8	27
115—119	5	3	1	9
120—124	13	14	9	36
125—129	0	1	0	1
130—134	3	7	2	12
135—139	1	1	0	2
140—144	3	3	1	7
145—149	0	1	0	1
150圓以上	19	25	6	50
不明	99	57	47	203
計	994	846	520	2,360

(第九表) 職工の嗜好品

	造船部	造機部	其の他	總計
煙草	463	364	289	1,116
酒	252	219	132	603
菓子	176	161	76	413
果	42	53	20	115
牛す	6	10	3	19
本	6	4	1	11
西	1	3	0	4
支	13	5	1	19
魚	0	1	1	2
豆	6	21	2	29
そ	3	9	1	13
蒲	1	0	0	1
野	1	1	1	3
其	1	3	7	11
な	0	2	0	2
	24	16	6	46
	120	116	77	313
計	1,117	991	612	2,720

第八表に於て新聞の購讀數の多き事は注目すべきで

である。

ある。又第九表に於て、煙草が絶對多數を占め、酒類菓子の嗜好がこれに續いてゐるのも興味深き事實である。

六 職工の經濟生活

かゝる境遇にあり、かゝる精神生活を送つてゐる職工は、果して如何なる消費生活を營んでゐるのであらうか。第十表は職工の一ヶ月の生計費を調査したものである。

第十表を見るに、下は二十圓以下より上は百五十圓以上に分れてゐるが、平均して云へば六十五圓見當なりと云はねばならぬ。この一ヶ月の生計費につき種々の研究を施す事が出来るが、特に注目すべきものとして住居費と交通費とをあげ、それを分析すると、第十一表と第十二表とを得る事が出来る。

(第十一表) 職 工 の 住 宅

			造船部	造機部	其の他	總計
借	疊數	5枚以下	21	15	6	41
		6—10	193	212	154	664
		11—20	358	374	238	970
		21—30	48	57	28	133
		31—40	5	4	2	11
	計	730	662	427	1,819	
家	家賃	10圓以下	212	114	97	423
		11—20	389	375	210	974
		21—30	115	157	97	369
		31—40	14	16	23	53
		計	730	662	427	1,819
下宿	(下宿料)	5圓以下	25	24	0	49
		6—10	57	54	43	154
		11—20	75	45	26	146
		21—30	40	11	0	51
		計	197	134	69	400
自宅疊數	10枚以下	0	1	0	1	
	11—20	8	6	3	17	
	21枚以上	8	6	4	18	
	計	16	13	7	36	
不明			51	37	17	105
計			994	846	520	2,360

(第十二表) 職 工 の 通 勤 方 法

	造船部	造機部	其の他	總計
市電	180	246	140	566
汽 車	46	84	40	170
天保山渡	165	143	112	420
築地渡	263	113	109	485
自 轉 車	28	48	13	89
徒 步	292	193	106	591
不 明	20	19	0	39
計	994	846	520	2,360

職工の住宅は殆んど借家であつて、下宿之に次ぎ、自宅は極めて小數である。借家について見るに、疊は十一疊乃至二十疊、家賃が十一圓乃至二十圓と云ふ所が普通になつてゐる。

以上、艦船工場に於ける職工の生活を調べる目的を以て、大阪鐵工所の職工の生活につき戸口調査を行ったのである。この戸口調査は、更に各方面に及び且つ詳細に行はれたのであるが、紙面の都合上よりして大略を紹介したものである。